

# 令和元年度 第3回 学校評議員会議事録

日 時 令和2年2月17日(月) 10:00～

場 所 本校小会議室

参加者 評議員 宮 下 俐 様 (富士吉田市立下吉田中学校長)  
正 木 啓 子 様 (山角会富士吉田診療所心理室カウンセラー)  
宮 下 美佐江 様 (石原会計事務所・主婦)  
鶴 田 清 司 様 (都留文科大学教養学部学校教育学科教授)  
栗 井 晶 子 様 (公益財団法人栗井英朗環境財団法人 代表理事)

職 員 校長・事務長・第一教頭・第二教頭・総務部職員(記録)

記録：総務部

## 1 校長挨拶

- 学校関係者評価ありがとうございました。今年度最後の評議員会となりますがよろしくお願ひします。

本校就任後3か年経ちましたが、登校時の生徒の顔が、上を向いて登校してくる学校でありたいと思ってきた。今後とも生徒の顔が俯くことなく前向きであることが続いてほしい。

- 同窓会やPTAは、本当に学校に対してよく貢献してもらっている。
- 私立大学が合格者数を絞り入試状況が厳しくなっている。国公立大学だけにこだわるだけでなく推薦入試を有効に活用していけるように取り組んできた。
- 「コミュニティスクール」となるにあたり、学校運営協議会が設置される。協議委員も15名程度と規模が大きくなる。校長は、学校経営案を策定するにあたり、協議員に承認を受けることを前提としている。

今後とも、学校を取り巻く環境の変化の先取りを探っていきたい。

## 2 学校評価について

【資料説明】(第一教頭)

- 本年2月6日(水)に校内教員による学校評価委員会を実施し、総括をした。

本年度は3つの学校教育目標を立てて指導を行ってきた。

「授業改善を行う」では、生徒・保護者・教職員がそれぞれ自己評価を行い、それを踏まえて達成度をA段階と評価した。特に9割の教員が、授業改善に取り組んでいることの高評価につながった。

「生徒の主体性を高める」では、こちらも自己評価結果を踏まえてA段階と評価した。授業のみならず、学校行事のあらゆる機会を通じて主体的に活動できたとの結果であった。

「人との関わりの中で生きていることを自覚させる」では、社会性を育むこの目標については、残念ながら達成度が低く、B段階評価となった。

地域の人々との関わりをもった行動への参加が低かったので、改善策として考えられるのは、今以上に「富士山学」を活用していく。また、ボランティア精神の育成にあたって工夫が必要であると考えられる。

【学校評議員から書面で寄せられた外部評価】(第二教頭)

- 授業改善についての中で、保護者としては、「子供はやや寝不足であると考えている」という項目がたいへん気になった。

- 主体性を高める取り組みについては、概ね高評価であった。
- 人との関わりの中で生きていることを自覚させるについては、今後の指針が示されている。
- 吉高 GP については、かなり意識が高まっていると思われる。来年度以降の取り組みの中に生かしていきたい。
- 1 学年で 7 月と比較すると下がっている所があり、気になるというご意見をいただきました。1 学年では、1 月から「朝時間活用プロジェクト」として、新聞を活用してのプロジェクトなどを進めており、生徒の意識低下に刺激を与える取り組みとなっている。

教 頭：ここからは懇談・意見交換とします。

評議員：ESD パスポートの活用やボランティア活動の評価はどうなっているか？

校 長：ユネスコへの申請による認定証と学校独自のボランティアの単位認定を行っている。ポイント制となっているが、なかなか達成する時間が確保できていないのが実状である。

評議員：ボランティアは、その活用の必要性が腑に落ちたところからが重要となる。今後とも取り組んでほしい。

評議員：先週行われた「富士山学」の発表を参観した。『産業』の発表の中で「地域に帰ってきましょう」という提案があり、「地域を愛する」教育の表れなのかなと感じた。

ポスターセッションでの発表風景から、いろいろと見えてくることがあった。下吉田中学校でも「地域へのお返し」の取り組みをしているが、地域を顧みる試みが重要だと思う。

ただ、学校としても新たな取り組みをしようとしても思うように時間が取れないのは中学校も同様である。。

評議員：TV 番組の中で、地元出身のフジファブリックのメンバーの発言から「地元愛」を感じ、この地域では以前からそういう取り組みが以前から行われていたの难道うかと感じた。

校 長：「富士山学」と同じ富士山をテーマに据えた取り組みは、富士吉田市内の小・中学校でも行われている。

評議員：（小・中での取り組みを紹介）

評議員：富士山にまつわる教育が根付いている気がする。これからの時代においても、学校での取り組みが重要だと感じた。

評議員：授業改善についてだが、小・中学校のように授業研修のような形での取り組みは行われているのか？

校 長：教科の特性もあり、全体での研修のための時間が取れていない。

教 頭：各教員が 6 月と 1 1 月に公開授業を行い、管理職も見学するようになっている。

評議員：地元の CATV を見ていて思ったことだが、たまたま見た地域の高校生が参加する番組で、吉高生が自分の意見をきちんと言っているのをみて、さすがだと感じた。

一方で職場での話だが、30 代半ばの男性が上司に叱られて泣いているという話を聞いて驚いた。叱られるということがないまま大人になってしまっているんだなと思った。

学校生活での体験がとても大切だと感じる。

評議員：近頃は、人から注意を受けると職場をやめてしまう人もいる。

評議員：吉高 GP を考えると、本当に社会に対応する力であると感じる。社会の荒波にもまれたときに、基礎力を身につけていることは重要であると考えている。

考え方が柔軟な若い時期に、吉高 GP のような力を身につけられることはとてもよいことだと思う。

評議員：小・中学校のなかでも、身につける力の目標を掲げて指導が始まっている。高校への橋渡しができれば理想的である。

校 長：コミュニティスクールもそれを狙っているのだが、近隣の高校のこともあるので難しい面もある。

評議員：吉高 GP は大学におけるアドミッションポリシーで掲げている内容と似ていると思う。

校長：大学もだが、社会に出ることを見据えて作成した。

評議員：資質・能力を伸ばす教育はもちろんのこと、粘り強く物事に取り組む力が大事だと感じている。学び合いの取り組みが、個人的には大事だと感じている。

評議員：忍耐力・粘り強さは、情熱を持つことで身につくのではないか。自分の好きなこと、夢をもてる若者が出てきてほしい。

評議員：吉高 GP の「自己肯定力」に対する評価項目の設問が「短所も含めて、自分を認める力」とあるのがとても良い。この部分がとても大切だと思う。

また「想像力」を高めることで他者への配慮ができるはずで、そうすれば「いじめ」に関することも解消に向かう一助となると思われる。

評議員：吉高 GP の取り組みを、今後とも継続していくことが大切である。

いろいろな場面を通じて説明し、発信し続けていくことがこれからの課題となる。

評価が下がることも見込まれるが、それは評価の基準が上がってくることの裏返しだから、それを踏まえて指導を続けていくことが重要である。

評議員：スクールカウンセラーとして吉高と関わってきたが、3年間評議員として関わってよかった。

評議員：評価が高いので良いとは思うのだが、「全くそう思わない」という回答があるところが気になる。

校長：「全くそう思わない」の存在は重要だと考えている。それが声になって上がってくるのが望ましい。そう書いた子が発言できる環境になってくれるのが理想である。生徒総会などで盛り上がってくれるとうれしい。

評議員：忙しい中、生徒のために取り組んでいる姿に感謝しています。

教頭：以上をもちまして、懇談・意見交換を終了します。

### 3 年間活動報告及び来年度の予定

#### ○来年度の開催予定

第1回 2020年 5月29日(金)

第2回 2020年10月29日(木) 2年生授業公開日

第3回 2021年 2月12日(金)

### 4 懇談・諸連絡

### 5 その他

終了